



吉原

舞鶴市立吉原小学校
学校だより



令和2年3月23日発行 14

学校に子どもたちが戻ってきました

新型コロナウイルス感染症対策に伴い、子どもたちの健康と命を守ることを第一優先で考えられて、3月3日～23日までの期間、舞鶴市では、休校措置がとられ、子どもたちの姿が学校から消え、大変寂しい思いでしたが、ようやく学校に子ども達の姿が戻ってきました。

休校期間中は、元気に外で遊ぶこともできずに、不自由な生活を家庭で送り、子どもたちは、ストレスも随分たまったことだと思います。また、保護者の方々にも、心配やご負担を沢山おかけしました。今もなお、色々なイベントが中止され、新型コロナウイルス感染症の問題も、まだまだ予断を許さない状況にあります。今後も予防の徹底をお願いしたいと思います。

成長の足跡を確信しました

根は
みえ
ねん
だな
あ
幹を
支え
る根
枝を
支え
る幹
花を
支え
る枝
相
田
み
つ
を

春弥生、蕾だった木々の花が咲き始め、今年の冬も終わりを告げ、暖かい春の日差しが降り注ぐようになってきました。

一年前の4月には小さな芽だった子どもたちも季節がめぐり、それぞれの思い出や成長という足跡の花を咲かせて、さらなる道へ進もうとしています。

23日の卒業式では、在校生、来賓の方々は出席せずの、時間短縮の形で行いましたが、6年生の7名が、それぞれ元気に巣立ちました。中学校へ行っても、吉原小で学んだ事を生かし、頑張ってくれと思います。

そして24日は、在校生30名が一つ上の学年に進級します。子どもたちは、確実に成長をしながら、このように元気に笑顔で卒業・進級の日を迎えることができましたのも、いつも見守り支えていただいた保護者の皆様、地域の皆様のお蔭であると心より感謝しています。本当にありがとうございました。
よい準備をして新学年のスタートを切ろう

24日の修了・進級式では、この1年間の頑張りや成長を評価した上で、一つ上の学年になったという新たな気持ちを持って、「新しい学年で、よりかしく、やさしく、たくましい吉原っ子」になれるよう、しっかりと頭と心と体の準備をして欲しいと思います。

短い春休みで、先生方や友達との別れや出会いがある時期ですが、計画的な生活を送り、新しい学年へのステップアップのためのよい準備期間となることを願っています。

私たち教職員一同、この1年間、「夢に向かい 根気強く努力する子どもの育成」の吉原小学校教育目標の実現を目指して精一杯努力をしてきましたが、力及ばず、皆様のご期待に添えなかったことも数多くあるのではないかと思います。どうか、今後とも変わらぬご鞭撻、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

吉原小学校 校長 井上憲正
教職員一同



令和元年度 舞鶴市立吉原小学校 学校評価について

本年度の本校教育活動について、以下の通り報告させていただきます。この評価は、年間2回実施しました教職員の自己評価と12月に実施しました児童アンケート、保護者アンケートの結果等を踏まえて作成し、3月16日に学校運営協議会で公開してご意見をいただきました。

学校経営の重点課題（短期経営目標）	重点別評価	成果と課題	総合評価
<p>自ら学び続ける子（展望する力の育成）をめざして】</p> <p>(1) 児童一人一人の生活実態や課題を的確に把握して学習習慣を確立させる。 (2) 小規模校のよさを活かし、基礎・基本の徹底とことばの力の育成を基盤にした授業づくりを行い、質の高い学力を身に付けさせる。 (3) 学力診断テスト等の分析結果を教科指導や補充指導に活かし、個に応じた指導を充実させて基礎・基本の徹底と活用する力の育成を図る。 (4) 児童一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の一層の推進を図る。</p>	B	<p>小規模校としての体制を確立し、それを活かした指導の工夫及び個に応じたきめ細かな指導により、一定の学力を維持することができた。 児童一人一人の生活実態や家庭学習の実態を把握し、保護者とともによりよい学習環境づくりに努めた。 さらに主体的に学ぶ児童の育成をめざした実践が重要である。</p>	B
<p>人とのつながりを大切にする子（つながる力の育成）をめざして】</p> <p>(1) 道徳教育や人権教育、体験活動を充実させ、相手を思いやる心、努力する心など豊かな人間性を育むとともに、表現する力を養い、自己や自校に対する自信と誇りを高める指導の充実を図る。 (2) 児童理解を深化させ、児童と教職員との信頼関係を深め、児童同士の良好な人間関係を構築し、不登校やいじめの未然防止の取組の積極的な推進と、規範意識を高める指導の充実を図る。 (3) 一人一人の保護者の願いや思いを丁寧に受け止め、家庭と学校の信頼関係の深化を図る。 (4) 広い視野を持ち異文化を理解し尊重する態度の育成をめざして、外国語教育を充実させる。（3年生以上）</p>	A	<p>校内及び対外的な発表の機会を活用して、子どもたちに表現する楽しさを味わわせ、自己や自校に対する自信を持たせることができた。 毎週1回の生徒指導交流会や定期的ないじめ対策・教相・特支委員会の開催により、児童理解を深め、適切な指導や支援につなげることができた。 保護者の思いを丁寧に受け止め、家庭と学校が協働して児童を育てていくように努めた。 道徳教育や人権教育のより一層の充実が必要である。</p>	A
<p>心もからだもきたえる子（挑戦する力の育成）をめざして】</p> <p>(1) 児童一人一人の生活実態や課題を的確に把握して基本的生活習慣を確立させる。 (2) 様々な取組において、過程を重視した指導と評価を行い、粘り強く取り組む態度を養うとともに、児童が成就感を実感できるような指導の工夫を行う。 (3) 児童の実態を踏まえ、体力・運動能力の向上をめざした取組を推進する。 (4) 児童の健康で安全な生活を確保するとともに、児童自身に危機回避能力を身に付けさせる指導を充実する。</p>	B	<p>全教育活動の中で、小規模校の利点を活かし、特に、集会活動や運動会、音楽会、6年生を送る会などにおいて様々な表現をやり遂げる中で、力を伸ばし、児童の自己肯定感を高めることができた。 避難訓練の内容を毎回工夫し、児童に危機回避意識を育てることができた。 新体力テストの結果分析から明らかになった課題の克服に向けて、運動会やマラソン大会の練習を通して取り組めた。 見守り隊の方が高齢になり、人員の確保が必要である。</p>	B
<p>ふるさとを愛し誇りに思う子をめざして】</p> <p>(1) 本校の教育活動の様子等について、家庭や地域の方々積極的に公開するとともに、学校だより等により情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。 (2) 家庭・地域との丁寧な連携を図り、社会総がかりで子どもを育てる気運を高めるとともに、周囲からの愛情や期待などが実感できる場面を設定する。 (3) 小規模校の利点を最大限に活かし、「全教職員で全児童をみる」教職員の意</p>	B	<p>保護者、地域の方々との日常的な連携により、社会総がかりで子どもを育てる機運が高まった。 地域の方の学校支援により、周囲からの愛情や期待が実感できる場面を多く設定することができた。 「全教職員で全児童をみる」教職員の意識が、一層高まった。</p>	B

<p>識をさらに高めるとともに、学習環境を整え、安心して学べる学校づくりに努める。 (4) 校区小中学校と協働し小中一貫教育を推進する。</p>		<p>小中一貫教育を取り組み、次年度の方向を定めることができた。 今後も、学校からの情報発信を積極的に行い、学校と保護者、地域との距離を一層縮める努力を継続する。</p>	
<p>【いじめのない学校づくり（包み込まれているという感覚の実感）をめざして】 (1) 児童一人一人の尊厳と人権が尊重される学校づくりに努める。 (2) いじめ防止対策委員会が、いじめの未然防止・早期発見に向けて、機能しているか、常にPDCAサイクルで検証を行う。 (3) いじめの未然防止のための取組を積極的に推進する。 (4) いじめの早期発見の取組を積極的に推進する。 (5) 教職員のいじめに対する感性を高めることに努める。</p>	A	<p>「全教職員で全児童をみる」教職員の意識が、一層高まり、児童の変化を迅速に把握し、対応できた。 組織的な対応ができ、未然防止、早期発見につながっている。 教職員の感性も高まりつつある。</p>	A
<p>教職員の資質の向上を図る。</p>	B	<p>実践を通じた研修を今後も継続する。</p>	B

【次年度に向けて】

今年度の評価結果等を踏まえて、次年度特に努力したいと考えている内容は、次の通りです。

小規模校として、そのメリットを最大限に活かし、デメリットを最小限にする学校経営

- 1 今年度の成果と課題等を踏まえ、来年度の指導体制を確立して指導改善に努める。
 - (1) 小規模校のよさを活かし、自ら考え、子ども同士が話し合い、学び合う授業を創造し、質の高い学力を身に付けさせる。
 - (2) 複数学年合同の授業（体育・音楽・図工）による教育効果を最大限引き出すための工夫を行う
 - (3) 城北中学校校区で小中一貫教育を意識した指導を展開する。
- 2 教員の意識改革
 - (1) 「全校児童を全教職員でみていく」意識をさらに高める。全教職員が、全児童の理解に努めて適切に指導していく学校をめざす。
 - (2) 一人一人が自分に自信を持って思いや考えを表現でき、友達のよさを認め、思いやりの気持ちを持って、ともに成長できる子どもの育成を重視した指導を徹底する。
 - (3) 義務教育9年間を見通した一貫した指導の在り方について研究・研修を深める。

家庭、地域、学校が一丸となって社会総がかりで子どもを育てる状況を維持・発展させる学校経営

- 1 一人一人の保護者との丁寧な連携で信頼関係を深め、保護者とともに子どもを育てられるような学校をめざす。
- 2 学校の様子を家庭・地域に公表する活動をさらに重視して取り組む。
- 3 地域の教育力を学校に活かし、学校の教育活動で地域の活性化に貢献できる学校づくりに努める。

いじめのない学校づくり

- 1 いじめ防止基本方針に基づく教育実践、学校経営を進める。
 - (1) 週1回の生徒指導交流会をさらに充実させ、全教職員の児童理解を進め、機を逃さず丁寧で適切な指導に努める。
 - (2) いじめ防止対策委員会を毎月1回は開催し、その質の向上に努める。
 - (3) 教職員間の信頼関係を深め、なんでも言い合える教職員集団の維持・発展に努める。
 - (4) きめ細かな保護者・地域との連携を心がけ、保護者・地域とともに子どもを育ていく意識を高める。
 - (5) 教職員のいじめを見抜く力、鋭い人権感覚を育成する。

来年度も引き続き、「小規模の学校」として、また「地域と密接につながった開かれた学校」として、特色ある学校づくりに励みたいと思います。今後とも、どうかよろしくお願いいたします。